

ペースメーカーを植え込まれた患者さんへのお知らせとお願い

当科でペースメーカーを植え込まれた患者さんを対象に、全例登録による研究を施行致しますので、患者さんへお知らせとお願いをさせていただきます。

研究の概要

洞不全症候群（脈がゆっくりになることによって症状が出る病気）は心房細動の出現と関連することが知られています。

またペーシングによっても心房細動が発生する可能性があることが知られていますが、ペーシングモードと心房細動の発生の関連はあまりよく分かっていません。

本研究は洞不全症候群に対してペースメーカーを植え込んだ患者さんの内服状況や心エコー所見、ペースメーカーの設定状況やペーシングの状況などをデータベースとして登録し、解析し、ペースメーカーのモードと心房細動の関連について調査します。

本研究は研究機関の長の許可ならびに倫理審査委員会での審査を受けています。

研究機関の名称

労働者健康安全機構横浜労災病院

研究責任者の氏名

小和瀬晋弥

研究の目的・意義

洞不全症候群（洞結節という脈を作り出す命令を出すところの機能が低下することによって、脈がゆっくりになる病気）に対してはペースメーカーが基本的な治療となります。徐脈を改善することによって心房細動の発生が少なることもあります。またペーシングによって心房細動が発生することもあります。

またレートレスポンス機能（運動などの身体的活動時に自動的に脈拍数を調節してペーシングする機能です）と心房細動との関係はあまりよく分かっていません。

現在の当院で植え込んだペースメーカーの状況を解析することによって、レートレスポンス機能と心房細動の関連が分かる可能性があります。分かった場合には、例えば、あらかじめ心房細動を有していることが分かっている方には増えないようなペーシングモードを選択したり、また増えることと関連するペーシングモードを使用している場合

は、心房細動による合併症が起きたりしないように注意深く経過を見たり、心房細動に対して早期に治療介入ができたりすることが予想されます。

方法

患者さん自身に改めてご負担をお願いするものではありません。これまでの診療、あるいは今後の日常の通常診療において行う検査結果や、患者さんの疾患に関する情報（病歴など）を、診療録を元にご提供して頂きます。

今後、当科で全数登録を行い、新たな知見が得られるよう、解析していきます。

提供される情報については個人が特定されないよう、匿名で行います。

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名

不整脈科 部長 小和瀬晋弥

ご不明な点がございましたら以下にご連絡ください。

担当者

横浜労災病院 不整脈科 小和瀬晋弥

電話 045-474-8111（代表）